

## 41. 当院における高齢者手術の臨床的検討

(宮川病院) 成宮孝祐・宮川晋爾・長沼 宏・  
須藤 誠・相川琢磨

## 42. 当院で最近経験した HIV 感染症の 2 例

(県央胃腸病院) 遠藤昭彦・林 俊之・宮内倉之助・藤本 章

## 43. 術前胃平滑筋肉腫，臍島腫瘍との鑑別に苦慮した後腹膜原発 Castleman's Disease の 1 例

(社会保険山梨病院内科・\*同外科) 地主将久・細田和彦・門沢秀一・  
矢川彰治\*・飯田龍一

## 44. 市中病院における乳癌手術の現状

(所沢胃腸病院・\*防衛医大第一外科) 新井俊文・小林秀規・佐々木一元・  
田巻国義\*・西田正之\*・佐藤一彦\*

## 45. Klatskin 腫瘍の 1 例

(内田病院) 高橋 豊・本橋洋一・内田泰彦

## IV 指定講演 司会 高崎 健

## 1. 肝癌の外科病理

山本雅一

## 2. MUC1 ペプチドを用いた癌ワクチン療法の開発

有賀 淳

## V 生涯教育講座 司会 高崎 健

## 消化器癌の進展度診断と治療法の選択

## 1) 胃癌

コーディネーター 村田洋子

## 2) 肝癌

コーディネーター 斎藤明子

## VI 総括発言

名誉所長 中山恒明

## 閉会の辞

副所長 高崎 健

**30MHz 高周波プローブによる正常胃壁構造と早期胃癌の深達度診断の検討**

(消化器内科) 小西洋之

〔目的〕 30MHz 高周波プローブを用い胃壁構造解明と早期胃癌深達度診断を行いその有用性について検討した。

〔対象と方法〕 基礎的検討として切除胃標本 10 例に対し水浸下で超音波像を描出し病理標本と比較検討した。臨床的検討として早期胃癌 40 例に対し深達度診断を行い病理標本と対比検討した。

〔結果〕 正常胃粘膜は 9 層構造として描出され粘膜筋板は第 4 層目として全例に認められた。臨床例でも 20 MHz と比較すると癌腫と粘膜筋板との関係はより明瞭となり深達度診断正診率は m 癌 88.5%，sm 癌 85.7%，全体としては 87.5% であり若干の改善を認めた。過大評価する原因としては潰瘍性変化や線維化が，過小評価する原因としては未分化癌の微小浸潤や減衰によるものが考えられた。

**胃粘膜と Heat Shock Protein—内視鏡修復過程と HSP70 の発現について—**

(消化器内科) 岸野真衣子

adaptive cytoprotection として知られている胃粘膜防御機構メカニズムの一つとして熱ショック蛋白 (heat shock protein; HSP) が注目される。熱ショックにより培養胃粘膜細胞において HSP70 が誘導され、それに伴ってエタノール耐性を獲得することが報告されている。ヒトの消化性胃潰瘍における HSP70 の発現は検討されておらず、また、その修復過程を創傷治癒機転に対応させた検討はなされていない。そこで我々は、当科において、各ステージごとに内視鏡的に観察しえた胃潰瘍患者 30 例に対し、潰瘍部分から行った生検標本を、抗 HSP70 ポリクローナル抗体を用いて、HSP の発現を免疫組織学的に検索した。その結果、HSP は潰瘍底の肉芽組織における線維芽細胞とマクロファージに強く発現していた。胃生検組織では HSP70 は全例に発現が認められた。また各潰瘍修復過程における発現率を比較すると、活動期 (active stage) よりも治癒期 (healing stage) の方が高かった。HSP は、創傷治癒の中心であるマクロファージや線維芽細胞に強く発現すること、胃潰瘍の治癒過程に相関関係が見られることより、組織修復に関与する働きを持つことが推察されたため報告する。